

ポケットの中にありったけを詰め込んで
この街を出ていった
今頃君はこの世界の反対に
家を建て暮らしてるかい？

僕はといえば軒先に佇んで
飛行機雲見上げてるよ
とりとめもなく読みかけのジュブナイル
ペラペラとめくる午後さ

便箋いっぱいにな況を書いたよ
宛先知らないけど
いつか君に送れるかな

うららかと花曇り交差するつつがなく
で、また桜色の風が吹いて一人で歩き出す

ロケットが飛んだ日僕のポッケは空っぽで
へらへらと過ごしていた
何にも言わず消えた君の知らせに
悔しくて堪らなくて

両手にいっぱいにな死に集めたよ
いつか判らないけど
いつか君に誇れるかな

うららかと花曇り交差するつつがなく
で、また桜色の風が吹いて一人で歩き出す
そして
うららかと花曇り交差するつつがなく
で、また桜色の風が吹いて一人で歩き出す

で、また うららかと
そして 花曇り
で、また うららかと
そして 花曇り

「胎児の夢見ていたら… いやに穏やかで…
波の音が聞こえたよ」 君はそう笑う

「鏡の僕に向かって お前は誰だと
訊ねたけれど無言だ」 君はそう笑う

朝陽が差す窓から 子供達の叫声

毛布だらけの君の家は 居やすくて
なかなか外へ出られない ね
ぼろぼろだけど心地良くて お気に入り
いつか外で遊べるかな？

埃まみれのレコード 閉め切った部屋で
壁一枚向こうの 世界に怯える

夕陽が差す窓から 子供達の叫声

毛布だらけの君の家は 居やすくて
なかなか外へ出られない ね
ぼろぼろだけど心地良くて お気に入り
いつか外で遊べるかな？

毛布だらけの君の家は 居やすくて
なかなか外へ出られない ね
ぼろぼろだけど心地良くて お気に入り
いつか外で遊べるかな？

※聞き取り不能の為割愛

ポプリとキスと泡 らせんと虹と雨

薬と傘と指 ミルクと嘘と猫

不埒な思惑 シーツの上の温もり
トマトをぶつける 悪ふざけの仕返し
プラチナ突き付け 粹がる奴らの顔に
トラコーマの目で 蔑んだらご機嫌

* カルテのない恋には処方箋無しでは出せない
噂の噂に聞いた秘薬がとても効くらしい
やけに足元を見るドクトルジバゴのメスは
どうやら今夜閃かないらしい

サブリナ気取りがベスパを足に街角
ジェラートなめあげお行儀悪く行こう
カプチーノ嫌いな貴女の指は細くて
摘んで弾いて仲良しで行きましょう

*

神様の知恵が足りないのなら明日の朝は
カルトな彼女に寝坊をさせて引き止めてみる

*

吠えよ 現世の死角に潜む使徒の名を
述べよ 伴の無い復路行李の品々を

漕げよ 飛沫立つ四海に進む舟の櫓を
告げよ 羊飼星の巡る理を

ああ 何時しか凧ぐ風波のボレアース
ああ 道を示す羅針盤狂いだす

開放系／孤立系 閉鎖した空間の
全能感／万能感 境界のフーディーニ
開放系／孤立系 交差した空論が
胎蔵界／金剛界 遥かな傍観者

OVERDRIVE

song & lyrics / frottageshi

両界曼荼羅 押サレテ揺ラレテ 着替エガ済ンダラ 座ルダケ
芥子ノ実コボシテ 頬張ル菓子パン 石積み上ゲテモ 崩スダケ
波間ニ漂ウ 泡ニモ等シク パジャマニ着替エテ 眠ルダケ
救イヲ待ッテモ 変ワラヌ毎日 壊シチマッテモ 去ヌルダケ

OVERDRIVE 叫ビ続ケ□ 震エル夜ニ

OVERDRIVE 嘆キ続ケ□ 凍テツク朝ニ

1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3

1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3

1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3

1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 毫!

両界曼荼羅 押サレテ揺ラレテ 着替エガ済ンダラ 座ルダケ
芥子ノ実コボシテ 頬張ル菓子パン 石積み上ゲテモ 崩スダケ

OVERDRIVE 叫ビ続ケ□ 震エル夜ニ

OVERDRIVE 嘆キ続ケ□ 凍テツク朝ニ

OVERDRIVE 叫ビ続ケ□ 震エル夜ニ

OVERDRIVE 嘆キ続ケ□ 凍テツク朝ニ

信心深さも堂に入る ご利益頼みの日々に
ひねもすのたりのたりかな 遠すぎた春

朝の陽射し避けて 嗚呼
夜の露を避けて 嗚呼

あゝこの世界に独り そりゃあンたにや広すぎた
あゝ祈るだけで暮れて また黄昏よ

彼は誰時に投げかける 燕よいつこへ行きたもう
鼓膜の奥に棲み着いた 嘲笑する声

人の視線避けて 嗚呼
無駄な祝詞叫ぶ 嗚呼

あゝこの世界に独り そりゃあンたにや広すぎた
もう居場所なんて無くて ハッハ空笑い
あゝこの世界に独り そりゃあンたにや広すぎた
あゝ祈るだけで暮れて また黄昏よ

銀色に光る車を見て 傷を付けてみたくて
ポケットの中をゴソゴソして 取り出した記念硬貨
ピカピカは誰の物でも無い 小さな拳に握った
カタチにならないモヤモヤした けれど確かなモノさ

惑星の片隅で眠りに就く 朝露が銀色になるまで
僕だけが君を乗りこなす夢を抱き

12時を過ぎて寝返りうつ 枕の隅を握り
ぼんやりと見える海の向こうは 今も諍いの渦
窓の隙間から陽が差し込んで 次に目覚めた朝に
全ての事が夢だったとして 明日は何をしようか？

惑星の片隅で眠りに就く 朝露が銀色になるまで
僕だけが君を乗りこなす…

僕は今ゆっくりと背伸びをする 少しでも大きくなりたくて
僕だけが君を乗りこなす夢を抱き